

令和5年度 狭山市立入間野中学校 学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 【評価の目安】

- A：よくできている。(90%以上)
- B：概ねできている。(85%以上)
- C：あまりできていない。(70%以上)
- D：できていない。(70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から 評価(文章表記)
			評価	説明	
学校運営全般	1	学校は、学校教育目標の達成に向けて、組織的に取り組んでいる。	A	・学校教育目標及び目指す生徒像の具現化に向けて、全職員で共通理解を図りながら、チーム学校としてそれぞれの分掌で知恵を出し合せて教育活動の推進に努めている。とくに「品性・感性」を磨く教育活動の展開については、学校行事や部活動等、生徒が主役となる体験活動を通じて豊かな心と感性を育むことを大切にしている。	・校長を中心として、先生方が協力し、多くの教育活動が展開されていると思う。通学時のシャツ出し、駅付近の自転車通行等学校外の生徒について改善の余地があると思う。 ・学校運営協議会の役割について考えていきたいと思います。 ・登下校の子どもたちへのマナーに関する指導をしているが、まだ解決には至っていない。この事に対してもっと地域の方々へのご理解とご協力を得ても良いと思う。
	2	学校は、生徒の生活によく気を配り、問題に対して組織的に、迅速に対応している。	A		
	3	学校は生徒の知性・品性・感性を磨く教育活動を展開している。	B	・市の委嘱を受けて、2年間取り組んできたESD研究については、持続可能な社会の創り手を育むことを目標に、授業や諸活動など、様々なアプローチから実践を積み重ね、その成果を発表することができた。	
	4	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A		
	5	教師は、生徒理解に努め、一人一人の生徒の心の悩みに応えようとしている。	A	・生徒理解については、計画された教育相談の他に「チャンス相談」を積極的に行って生徒のわずかな変化を見逃さぬよう個別の対応や支援に努めている。また、喫緊の課題である不登校対策については、学年や生徒指導部会、教育相談部会が中心となって組織的にあつてい	
	6	清掃が行き届き、学校がきれいである。	A	るが、相談室やSC、適応指導教室等ともさらに連携を深めながら個別支援に努めていきたい。	
	7	学校の施設・設備は安全に管理されている。	A	・保護者や地域の負託に応えるべく学校経営を推進してきたが、下校時の交通マナーなどに行き届かぬ面があり、課題の一つとなっている。	
	8	学校は保護者や地域の負託にこたえる学校運営を推進している	B		
学習	9	教師は、生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	A	・県学調において、1年国語以外、すべての学年、教科で県の平均正答率を上回った。とくに3年は全教科平均で5ポイント以上、県の正答率を上回ることができた。これは、日々の授業を教職員と生徒たちが大切にしている成果だと思われる。	・全国学力テスト、県テストの結果を見ると平均を市平均を上回っているが、ある教科は他教科と比べると平均より上回る度合いが低い。その部分の改善を望みます。授業ではプリントを使ってやっている授業が見受けられます。知識を身に付けさせるには一つの方法かも知れませんが、できる生徒は教師の話の最中に早くやってしまい、あとは別のことをやっていることがある。また授業も穴埋めを全部しなければならず、平板になりやすく感じます。これからは主体性や表現力などの非認知能力の育成にも力を入れていただきたい。 ・ICTの活用については、徐々に進んでいくものと思われます。家庭学習の習慣は学校だけの課題だけではなく家庭の協力が必要。 ・授業は興味が湧いて来る授業を実施しており、勉強する環境はとても良いと思う。
	10	教師は、生徒の基礎・基本の定着に努力し、学力の向上を図っている。	A		
	11	ICTを積極的に活用した授業が展開されている	C	・ICTの活用については、各教科で差異はあるが、PCとモニターを活用した資料、映像の提示やタブレット端末の活用の工夫に努めている。全校レベルでのさらなる活用の促進を図ってきたい。	
	12	生徒は、授業規律をよく守り、落ち着いて学習に取り組んでいる。	A	・家庭学習については、各教科でノートやレポート等のこまめな点検や個別指導をはじめ、課題の提示などを行ったが、自主的な家庭学習の習慣化に課題が残された。	
	13	生徒は、家庭学習の習慣を身につけている。	C		
規律ある態度	14	学校は、行事等を通じて生徒のやる気を育てる指導に心掛けている。	A	・生徒総会や体育祭、校内音楽会など、生徒が主役となる学校行事の企画・運営を推進し、生徒の達成感や連帯感を味わわせることで、自己肯定感が高まるよう努めた。	・生徒の普段の教室や廊下での話を聞いていると穏やかさを感じます。 ・子どもたちは常に大人を見てます。先生方がもっと率先して挨拶やコミュニケーションを子どもたちと交われば今以上の良い環境になると思う。
	15	生徒は、TPOを踏まえ、あいさつや正しい言葉づかいができています。	C	・朝読書の静寂から一日がスタートし、2分前行動を合言葉に、全体として規律ある学校生活が送れている。	
	16	生徒は、きまりや時間を守って生活している。	A	・「気遣い文化」が広まるよう、様々な場面で働きかけを行い、生徒の他を思いやる行動や気遣いが見られるようになっていく。	
	17	生徒は、自他を大切にし、思いやりのある言動がとれている。	A	・あいさつについては、教員が日頃から率先垂範しているほか、部活動ごとにあいさつや礼儀を大切にしている指導を行っているが、今後はさらなる自発的かつ積極的なあいさつの励行が期待される。	
	18	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	A		
健康・体力	19	教師は、生徒の学校生活が充実するよう指導している。	A	・保健体育科では、市内の教員を集めて研究授業を行うなど、指導力の向上に努め、生徒もそれに応えて走りアップなどに意欲を持って真剣に取り組んだ。	・部活動も熱心にやられていて良いと思う。働き方改革、地域移行を踏まえもっとやりたい生徒への対応をお願いしたい。 ・学級閉鎖や学年閉鎖時の各家庭での過ごし方や、保護者への理解を常に考えている事は素晴らしい。子どもたちへの生活リズムを壊さない様な取り組みがもっとあっても良いのでは。
	20	生徒は、体育授業や部活動に意欲的に取り組んでいる。	A	・部活動でいくつもの競技で地区大、県大出場を果たすなど、生徒が熱心に取り組む、体力と技能の向上を図った。	
	21	生徒は、健康を意識し、自己の健康管理を意識している。	B	・保健指導や保健委員会の活動等を通じて感染拡大防止に努めたが、冬季には、インフル等による学級閉鎖の対応を、複数同時にとらざるを得ない状況も生じた。	
地域との連携	22	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供し、説明責任を果たしている。	A	・今年度も、学校・学年だよりやPTAだより等をアプリを活用し、電子配信した。また、保護者からの要望に応じて、学級閉鎖等の連絡を、該当学級のみならず全校へ配信することにより、感染状況の共有化と注意喚起を図った。	・コミュニティスクール、地域学校協働活動等地域にもう少し発信、啓発してもよいのではないか。 ・地域行事へのボランティア参加など情報提供していきたい。 ・今以上に地域を巻き込み活動が盛んになれば、地域一体型の良い学校が出来ると思う。
	23	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	B	・PTAと実行委員会、おやじの会等のご尽力により、4年ぶりに「いま路祭」を復活させたが、その運営には課題も残された。	